

科目名	実践基盤看護学臨地教育実習 I Practice foundation Nursing Educational Practice I		担当教員 (研究室番号)	未定 灘波 浩子 (204) 鈴木 聡美 (103)		教員への連絡方法 (メールアドレス)					
履修年次	1年次 後期	科目 区分	専門科目	選択 区分	コース 必修	単位数 (時間)	3(90)	授業 形態	実習	科目等 履修生	否
科目 目的	学部教育における、1～2年生を対象とした実践基盤看護学分野の実習指導を行うことにより、看護の現場における教育指導能力の修得を目指す。										
ディプロ マ・ボリ ン (DP)	主要なDP	6. 看護実践の場における看護専門職者や看護学生に対する教育能力を修得している。									
	関連する DP	1. 多様化・複雑化・高度化する看護ニーズを的確に捉え、看護の特定領域における高度な看護実践能力や総合的な調整能力を身につけている。									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 同行する実習を履修する学生のレディネスを知ることができる。 2. 同行する実習のカリキュラム上の位置づけや、教育目的・教育目標・評価方法を知ることができる。 3. 同行する実習を実施する医療機関の特徴、特に実習病棟の入院患者や看護・医療の特徴を把握することができる。 4. 実習環境とは何かを理解し、その具体的調整方法を知ることができる。 5. 学生の看護実践や実習記録等について教育的活動を実践することができる。 6. 実践した教育活動を振り返り、看護における教育観の醸成につなげることができる。 										
成績評価方法 (基準)	実習内容、臨地実習指導記録簿、臨地教育実習報告書、学生への対応等を総合的に評価する。										
教科書	必要時、紹介する。										
参考書等	必要時、紹介する。										
受講者への メッセージ	看護の初学者である、基礎看護領域で学習する学部の学生に対して、自分の看護観を改めて見つめ直しながら、看護師に必要な基礎的な能力を育成するために支援的に関わって下さい。										
備考	教育実践上、看護学原論、基礎看護方法Ⅰ、基礎看護方法Ⅱ、基礎看護方法Ⅲ、基礎看護方法Ⅳの学習内容の知識が必要となる。										
学 習 内 容											
<p><基礎看護学実習Ⅰ></p> <p>【実習期間】 同行する実習は、学部1年生が履修する「基礎看護学実習Ⅰ」とする。 後期火曜日のうち4回について、臨地指導を行う。</p> <p>【臨地指導実習】 1回目：病院や病棟の特性の理解、および患者の療養環境について学生の理解を深めるように、教育的な関わりを行う。 2回目：患者との円滑なコミュニケーションを促進し、患者の療養生活について学生の理解を深めるように、教育的な関わりを行う。 3回目：看護援助やチーム医療の実際について学生の理解を深めるように、教育的な関わりを行う。 4回目：患者の療養生活における気持ちや、基本的欲求について学生の理解を深めるように、教育的な関わりを行う。 *毎回提出される、学生の実習記録の評価を担当教員と共に行う。また担当グループの最終評価を担当教員と共に行う。</p> <p><基礎看護学実習Ⅱ></p> <p>【実習期間】 同行する実習は、学部2年生が履修する「基礎看護学実習Ⅱ」とする。 後期9月から10月にかけて実施される2クールの実習のうち、1クールについて、臨地指導を行う。</p> <p>【臨地指導実習】 1週目：患者と援助の人間関係を築き、毎日の看護援助を実施しながら、情報収集を進め、全体像を理解するための教育的な関わりを行う。 2週目：引き続き看護アセスメントを進め、看護問題を抽出し、個別性のある援助を行って、その結果を評価するための教育的な関わりを行う。 *担当グループの最終評価を担当教員と共に行う。</p> <p><基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ共通></p> <p>【学内実習】 学生便覧、シラバス及び実習要項から同行する実習について学習する。また、実習オリエンテーションに参加し、実習についての理解を深める。 さらに、可能な限り教員が学内で実施する実習に関する会議に出席し、実習運営の全体像を学ぶ。実習前には、同行する実習が行われる病棟で研修を行い、学習環境を把握する。</p> <p>【教育指導実践に関する記録類】 臨地教育実習における実践について、毎日「臨地実習指導記録簿」に記載し、担当教員に提出する。また、実習終了後には指導の総括を行い、記録にまとめる。</p>											